

千綿っ子だより

ちからを合わせて
わらい声あふれる
たのしい学校



一文字一文字に心を吹き込む

幼い頃に書道教室に通っていた方も多くいらっしゃると思います。実は、私も小学校1年生から高校3年生まで書道教室に通って腕を磨いていた一人です。習い始めの低学年の時は、習字の先生に褒められるのがうれしくて通っていたのですが、中学年の時、市の美術展に出品されたことをきっかけに、「習字の先生になりたい」と夢をもつようになったことを覚えています。

思ったように上手に書けないこの連続で、一画書いては半紙をくしゃくしゃにし、お隣のお友達とおしゃべりばかりしていたこともあります。今考えると、そんな時は、「今日は行きたくないな」とか、「早く書いて終わりたいな」など、気持ちが入っていなかったように思います。昇段試験があったのですが、目標が定まるごとに、私も少しづつ集中して取り組むことができるようにになってきて、心を落ち着かせ静かに半紙に向かう時間が楽しく感じるようになりました。大人になった今、もう一度、書道をはじめようかと考えたりしています。



さて、千綿小学校5・6年生は、先日、書道家の佐藤鳳水先生をお迎えして、条幅に挑戦しました。ご覧のとおり、鳳水先生に手ほどきを受けながら、一画一画に心を込める子供たちの姿が見られました。どの子もとてもいい字を書いており、先生から「みんな上手ですよ」と褒めていただきました。短い時間ではありましたが、ピンと張りつめた空気の中で筆を動かす経験は、子供たちにとって集中力を高める貴重な時間となりました。

よく聞く

26日、今年度3回目の避難訓練を実施しました。今回は、予告なしの訓練です。校長の話として「人の話をよく聞く」ことを伝えました。適切かつ安全に行動し命を守るためにには、まず、放送をよく聞き火元を避けて逃げる必要がありました。しかし、今回は「おしゃべり」があり、全校の反省点として残りました。

命を守るためにには、やはり、正しい情報をいち早く正確にキャッチして判断することが大切です。日頃から「人の話をしっかり聞く」ことは、命を守る大切な行動だということを子供たちと考えたところです。

